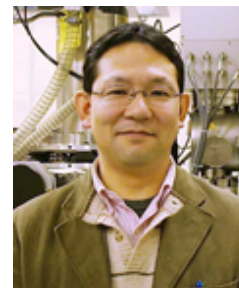


〈風戸賞〉受賞者の寺田健太郎氏が『科学技術賞』を受賞

第二回（平成 20 年度）〈風戸賞〉受賞者の寺田健太郎氏が、平成 23 年度の文部科学大臣表彰『科学技術賞（研究部門）』を受賞しましたので、お知らせいたします。

〈業績名〉

「局所絶対年代分析で解読する新しい太陽系史の研究」



〈概要〉

地球型惑星の起源と進化を探る上で、「時間軸」を決定する岩石の年代測定は必要不可欠な分析技術です。しかし、惑星物質の多くは、数十億年間にわたる度重なる天体衝突によってミリサイズ以下に破碎・混合されているばかりか、衝突時の熱変成により放射年代系がリセットされる等、衝突前の始原的な年代情報を引き出す事が困難でした。

寺田氏は、隕石中に普遍的に存在する、熱耐久性にすぐれたウラン（U）に富むリン酸塩鉱物に着目し、約 10 μm に絞った酸素イオンビームを照射し、鉱物から叩き出されたウランとその娘核種の鉛（Pb）の同位体比を高感度・高分解能で分析する方法を、世界に先駆けルーチン化しました。この研究により、これまでベールに包まれていた月、火星、小惑星などの初期進化の「時刻」を決定することが可能となりました。

〈社会的効果・実施効果〉

この研究成果は、十ミクロンの鉱物粒子から「絶対年代情報」を得る手法であり、彗星や小惑星から回収した微粒子や微化石など応用が可能であることです。生成環境の指標となる酸素・炭素同位体の分析方法と併用することにより、「太陽系史の高精度解読」、「地球史の古環境の復元、将来予測」にも寄与することが期待されます。

〈本賞について〉

文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発や理解増進等において、顕著な成果を収めた功績を讃える表彰です。その中の科学技術賞（研究部門）は、我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った方が対象となっています。

〈文部科学省ホームページ〉

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/1304367.htm

寺田氏は、現在は広島大学大学院理学研究科の教授に昇進され活躍されております。